

様式第1（第6条関係）

議会報告会等実施報告書

開催日時	令和6年 2月 4日(日) 午前10時00分 ~ 午前11時30分
開催場所	役場3階 第1会議室
出席議員	委員長 江幡満世志 副委員長 鈴木和江 委員 山崎卓美、宮川基英、松本佳子、丹羽勉、 藤田敏英、江口昌史
参加団体・人数	大口町コミュニティバスサポート隊 6人
実施内容	議会報告会
	意見交換会 多くの利用者からの意見を聴く活動や、意見等をバス事業に反映させたりしている、サポート隊の意見や要望・問題点等について意見交換を実施。
要望・提言等	1 バスサポート隊の構成活動状況を知りたい。 2 利用促進のため課題は何か。 3 10年後、20年後をどうするか。 4 毎年、予算が増えることへの今後は。 5 利便性向上のためバスの便を増やしてほしい。 【詳細は別紙】
その他特記事項	特になし

令和6年2月14日

大口町議会議長 江口 昌史 様

議会広聴広報常任委員会委員長 社本 與七 様

総務建設常任委員会委員長 江幡 満世志

別紙

1 大口町コミュニティバスサポート隊の構成活動状況は。

大口町コミュニティバスサポート隊は平成24年に「まちなねっと大口」が委託をしたコミュニティバス利用促進に特化した団体である。

町民に親しみをもってもらい利用者増に繋がるPR活動、アンケート調査等を行い、町と協働でバス運行の一助を担うことを目的としている。

窓口は「まちなねっと大口」であり、スタッフの水谷さんが外出支援サービスの観点からマイ時刻表を作成するなどを行い、それが好評とのことでした。

2 利用促進のための課題は何か。

バスサポート隊の声により遅延を無くすダイヤ改正等に貢献している。バスサポート隊が抱える利用促進の課題は、公共交通手段が無い期間が長かったため、自転車や自動車での移動に慣れてしまった生活を、いかにマイカーや自転車からコミュニティバスの利用にもっていくかであり、免許証返納になられた場合には、コミュニティバスに自分の生活を合わせてもらうことである。

また、コミュニティバスの運賃を無料にするのも利用者を増やすため今後のひとつの方法であり、公共交通機関であるコミュニティバスは岐路に立っている。

3 10年後、20年後をどうするのか。今後は2面制で取り組むべきではないか。

1つ目としては、高齢化社会においては外出支援という福祉サービスとしての公共交通機関。

2つ目としては、民間の公共交通が何もないため町民の足としての観点からの交通手段。

交通会議でバスを利用している人がメンバーになって発言してもらうべきではないか。外に出るのに不自由を感じている人の意見なども聞く機会を設けてはどうか。基幹ルートに特化して、デマンド型交通で補うのも1案ではないか。チョイソコかがみはらは、携帯さえ有ればとても便利等々、活発な意見交換になりました。

4 毎年、予算が増えることへの今後は。

今後、高齢者は増え続けるので益々コミュニティバスの必要性が高まる、当然予算は増えると思うが議会として是非力を入れてほしいと要望もありました。

具体的にバス事業への予算を1億円ほど設けて欲しいとの意見もありました。

5 利便性向上のためバスの便を増やしてほしい。

コミュニティバスを利用したくても合う時間がない。便数を増やしてほしい。便を増やせばお金はかかるが考えてほしい。2024年問題も考えていかなければならない。今後はライドシェアも1.5種免許でいけるので、活用範囲も広がるのではないか。

予定の時間が経過したため、本日の意見交換会での総括的まとめを行いました。

まとめとしては、予算1億円への対応はお聞きすることしかできませんが、バス事業を継続していくための意見交換ができ、バスサポート隊の方々はもちろん、双方とも意見が途絶えることなく決められた時間を共有する事ができました。

以上